**執筆原稿　技術発表／技術報告用原稿見本　〇〇報告**

行間0ポイント

タイトル：報告書ではなく「報告」

著者が3名以内の場合，

インデント左 6.19 字

（解剖・グローバル教育Gは左 4.8 字）

**サブタイトル**

16ポイント（1行）空き

著者が３名以内の場合，

2段組みの右段の先頭行にあわせる。

**蔵本技術部門**

**○○○○○○○グループ 徳島　太郎** **(TOKUSHIMA Taro)**

**常三島技術部門**

**▽▽▽グループ 佐那河内　次郎** **(SANAGOCHI Jiro)**

英文の「 ( ) 」（半角）はTimes New Roman

11ポイント（1行）空き

１．はじめに

　原稿の様式を統一する目的で執筆見本を作成する。ISBN番号を取得し定期刊行物とし国立図書館へ寄贈しているため，発行物内の様式が整っていた方が良いとの判断である。

日時の括弧はMS P明朝（全角）にすると間延び防止になる。

２．概要

日程：令和2年3月23日(月)～24日(火)

場所：○○○技術センター（○○市）

主催：○○大学○○委員会

参加者：500名

MS ゴシック

３．原稿の構成について

原稿は，A4縦向き横書きとし，はじめに1段組の部分を設け，タイトル（サブタイトル含む），所属部門等，所属グループ，氏名，氏名の英字表記の項目を記述する。任意項目として，Abstract，keywordを記述するものとする。Abstract，keywordは両サイドを3文字あける。タイトルと，所属部門等との間には16ptの改行を挿入する。上記の項目ののち11ptの1行の空白を挿入して，本文を記述するが，本文は2段組とする。

2段組のページ設定は，

和文のカッコは

MS 明朝（全角）

* 文字数と行数を指定
* 文字数は

（段の幅）20字（変更は認めない）

（間隔）　1.9字（変更は認めない）

* 行数は45行（最大48行まで可とする）
* 余白は，上下左右20 mm，綴じ代は0 mm
* 段落設定は，配置を両端揃えとする
* 段落設定の体裁は，禁則処理以外のチェックは外す

以上とする。Keywordは10語まで。

　タイトル部の1段組部分は1/2ページを超えないこととする。22行以上の本文の記述が可能である。

間隔 1.9 字

文字（全角） 20 字

　セクションとセクションの間は1行（11pt）空ける。

４．フォント種類について

　日本語フォントは，日本語は明朝体を，英数字はTimesNewRomanをそれぞれ基本とする。

　タイトルから氏名（ローマ字表記）までは太字とする。

各セクションの見出しはゴシック体とする。ただし，見出し中の英数字はArialを使用する。またサブセクションもセクションと同じ扱いとする。サブセクションの表記は「ｎ．１」のようにセクション番号に続き全角数字を用いる。サブサブセクションも同様とする。謝辞や参考文献の見出し部はゴシック体とするが，セクション通し番号は付けない。

図表の通し番号は全角数字とする。図表のフォントは本文と同じ和文は明朝体，英文はTimesNewRomanとする。

参考文献の引用番号は[1]で記述し，上付きとする。複数を一度に記述する場合は[2,3]とし，上付きとする。参考文献に記載したものは本文等で必ず参照する。

11ポイント（1行）空き

５．フォントサイズについて

タイトルは16pt，所属部門等から氏名（ローマ字表記）までは12pt，Abstractは和文11pt，英文10.5pt，keywordは和文10.5pt，英文10pt。

本文は11ptとする。図表のキャプションも，本文と同じ11ptとする。

６．句読点について

　句点は「。」を読点は「，」（全角）を使用する。句読点のぶら下げは行わない。

文字（全角） 20 字

７．タイトルについて

　タイトルより上部に空白は必要ない。タイトルが複数行になる場合は行間を最小に設定する（0pt）。

複数行は頭をそろえる。セクション，サブセクションも同様。

８．所属部門等について

　学内の場合は，常三島もしくは蔵本の部門名を記述する。なお，総合技術センター所属の者は総合技術センターとする。学外の場合は，所属を部局または部門等まで正確に記述する。

セクション，サブセクションの見出しの英数字は Arial

９．所属groupと氏名について

　学内の場合は，技術支援部の所属グループを記述する。総合技術センター所属の場合は，総合技術センターのグループ名を記述する。学外の場合は，課・係・分野・グループ等を記述する。

図表の数字はMS 明朝（全角）

　氏名の記述に関し，3名まではグループ名と氏名を1行に記述し，4名を超える場合は，はじめに所属グループを記述し，氏名を1行2名程度で記述する。その際，所属グループと氏名が対応できるように所属グループと氏名の右肩にアルファベット（小文字）を適宜使用する。3名以下の場合であっても同一の所属グループの場合グループ名を省略しても良いが，氏名の開始位置は第1筆者に合わせる。

図表の数字はMS 明朝（全角）

Times New Roman

　講師や発表者の氏名の後には「先生」や「氏」をつける。

１０．図表について

　図表には，それぞれキャプションと通し番号を記述する。通し番号は全角数字とする。図の場合は図の下部に，表の場合は表の上部に記述する。図表と本文との間には1行の空行を設ける。なお，テキストボックス等を使用して挿入した図表において，本文と図の間に適切な空間があれば前述の1行にこだわる必要はない。図表が原稿内に1つしかない場合にも番号を付けるものとする。図表のキャプションは可能な限り中央揃えとする。

　キャプションが2行以上になる場合は，字下げを行い図表番号と明確に区別する。

　大きな図表を挿入する場合は，一時的に2段組を解除しても良い。

　図表は本文で引用を行う。図１に花の写真を示す[1]とともに，表１に花の種類を示す。



人の顔が判別できる場合は，本人に了解を得る。特に一般の方は個人を特定できないように配慮する。

図１　これは牡丹の花。花言葉は風格，富貴，

恥じらい，人見知りである。

１１．さいごに

文章は紙面1ページの3/4以上を埋めるものとする。執筆者個人で調整が困難な場合は，委員に相談すること。

表１　表の説明

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| □□ | □ | □ | □ | □ |
| □□ | □ | □ | □ | □ |

謝辞

　本○○○○に際して，令和○年度日亜化学工業教育研究助成基金の支援をいただきましたことに感謝申し上げます。

謝辞には技術支援部経費以外を記載

参考文献

1. http://rennai-meigen.com/botanhanakotoba/
2. 著者名，文献名，年月日，○版など
3. ○○○，○○○○○○，○○○ Vol.○，No.○，pp.○-○，2014
4. 123
5. 5678

頭をそろえる。

1. 123456789
2. 98765
3. 123345678
4. 1111111
5. 2桁
6. △△△，△△△△△△，△△△ Vol. △，No. △，pp. △-△，2015